

## 女性研究者支援センターの活動について

女性医師・研究者は専門職であり、仕事の結果に対して、自らが女性であることを言い訳にすることはありません。しかし、女性医師・研究者には、自分自身が次世代の子供を産み育てることに価値を見出す人たちが大勢います。医師・研究者として職責を全うすることと、子供を産み育てることを両立できる環境の整備が必要です。個人差はあるものの妊娠・出産・乳幼児の育児期間中は、医師・研究者としての仕事量を少なくせざるを得ない場合があり、就労を継続するための各種制度や環境整備等の一定の配慮は必要です。しかし、その配慮というのは、医師・研究者としての能力開発やキャリアの選択肢を狭める可能性が高いマミートラックで、女性を育成することではありません。

医療界は長年、懸命に働く男性医師・研究者が牽引してきたことは事実です。その中で、男性医師・研究者の育成に関しては、業界としてノウハウを積み重ねてきました。医療界で現在不足しているものの一つとして、女性医師・研究者の能力開発、特に幹部職員となる女性医師・研究者の育成が挙げられます。未だ、上位職を目指す女性医師・研究者にとっては、同性のロールモデルが少なく、どのようにキャリアを積み上げれば良いかは、妊娠や出産を経験することがない男性医師・研究者から学ぶことが多い状況です。

女性研究者支援センターでは、女性医師・研究者のキャリア向上を支援するため以下のような活動を行っています。

これまでの女性研究者支援センターの調査から、本学の女性医師教員は男性医師教員と比較して研究業績が乏しいことが判明しています。女性医師に対する研究の指導や教育に関して、各部署で何らかの課題を抱えているのではないかと考えています。そこで、女性研究者支援センターでは、女性医師・研究者に対する支援として、妊娠・出産・育児や介護期間中の研究補助、若手女性医師に対する競争的資金獲得のための支援事業を行っています。また、女性医師の大学院進学率は、男性医師と比べて低いことも明らかになっていますので、男女すべての学生に対するキャリア教育に加えて、女子医学生や女性医師に大学院進学・研究の意義を伝える広報活動も行っています。女性の研究活動を奨励するために、

平成 23 年度に女性研究者学術研究奨励賞を設立し、優れた研究業績を持つ本学の女性研究者に、毎年賞を授与しています。平成 28 年度からは、「アカデミックキャリア男女間格差解消を目指した教育プログラムの構築」のための研究活動を行っており、研究成果をもとにプログラムを作成し医学教育に貢献していきたいと考えています。

男女にかかわらず、医療専門職の能力を高め患者さんに還元することは、奈良県で唯一の医育機関である本学の使命です。すべての医療専門職の資質向上と優秀な人材確保のために、長時間労働の是正等、就労環境整備は喫緊の課題です。女性研究者支援センターでは、医療専門職の就労環境整備を目指して、人事課と協力し法人全体の職員のワークライフバランスを推進する活動にも参画しています。また、女性職員が 60%を超える奈良県立医科大学において、全職員が男女共同参画に関する正しい知識を持つことが、法人の発展に必要と考え、男女共同参画に関する講演を企画・開催しています。

残念ながら、本学においても様々な部署で、ハラスメント問題に悩む職員がいることがアンケート調査からも明らかとなっています。ハラスメントは、法人や職員、学生、ひいては患者さんにも悪影響を及ぼす重大な問題です。女性研究者支援センターは、これまでも女性医師・研究者に限らず、全ての職種や学生の相談窓口の役割を果たしてきました。センター専任教員が女性医師であることや、教育開発センター兼務スタッフとして女子学生の支援を担っている関係上、女子学生や女性医師からの相談が主ですが、今後も法人内に複数ある相談窓口の一つとして、相談業務を担っていきたいと思います。また、平成 23 年度女性研究者支援センター創立当初より実施しているハラスメント防止研修会も継続したいと考えています。

以上、微力ではありますが、法人の発展に寄与するため、平成 29 年度も上記の活動をさらに発展させていく所存でありますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

女性研究者支援センター  
マネージャー・講師  
須崎康恵